

交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

第14回 メンバー座談会・北海道ブロック編

活動してきたことが次に生き、 それが厚みや説得力につながる

今月号から地域交流牧場全国連絡会(交牧連)のメンバーが地域ブロックごとに座談会を開き、これまでの活動を振り返り、今後について語り合います。今回は北海道ブロックの酪農家4人が集まりました。

酪農はたくさんの関係者と共に成り立っている

北出 皆さんの交牧連入会のきっかけはどんなことですか？

伊藤 就農以前は、生協で消費者を生産現場へ連れて行く仕事をしていました。その後、実家の牧場に戻った時に見学できる場をここにもつくりたいと考え、交牧連設立初期の頃に参加しました。

大友 北海道十勝管内芽室町でクラブ・ユース(40歳以下または就農5年以下の酪農家らを対象とした、相互研さんや情報交換などを目的とした事業)の勉強会が開催された時に声をかけてもらって参加しました。地元は畑作の方が多く、酪農家の友達がいなかったのです。

北出 自分は消費者が酪農を身近に感じてほしいと思っていて、酪農体験のノウハウを知りたかったからです。

石川 北海道ブロックの研修会で有機酪農の講演をしたのがきっかけ。その頃に高校生の受け入れをしていたことも理由です。

北出 どのような行事が印象に残っていますか？ 私が思い出すのは、まずクラブ・ユースの行事です。東京や青森での勉強会に参加したり、企画したこともないのにいきなり北海道で勉強会を開催したこともあります。この時は北海道のメンバーが協力して積極的に進めてくれました。全国から集まった仲間と仕事や家庭のことをいろいろ話しました。参加者には学生も従業員も業界関係者もいました。

その後も、北海道ブロックではいろいろなテーマで集まりました。年齢制限を設けなかったのも、先輩酪農家も参加してくれ、いつもとても打ち解けた雰囲気でした。

石川 一番印象的だったのは、釧路で行われた全国研修会の板東寛之さん(ホクレン農業協同組合連合会専務=当時=)の講話です。

北出 普段は聞けない人の話が聞けるのも、この会だからこそですね。

大友 自分は旧・指定生乳生産者団体の人と会ったこともなかったので、乳代精算の仕組みの研修会なども大切な機会でした。それに新婚旅行の際、クラブ・ユースで知り合った人のところに寄ったりしました。そういう“出会い”も入会して良かったことです。

北出 酪農は関係者がたくさんいて、こんなにいろいろな人と関わって成り立っているんだ、と思いました。知らなかったし、想像したこともなかったです。

伊藤 交牧連に入っていなかったら、全国の牧場を見る機会はなかったと思います。牧場を見に行くのは大切なことで、北海道と本州で考え方が違って、牛が食べる餌だって違う。そうしたことを直接聞ける

座談会参加者



北出 愛(42)
河東郡士幌町
藤山岸牧場
2013年入会



石川 賢一(53)
網走郡津別町
(有)石川ファーム
2016年入会



伊藤 泰通(58)
根室市
明郷伊藤☆牧場
(有)伊藤畜産
2005年入会



大友 詠吉(32)
河西郡芽室町
大友牧場
2017年入会



工場・牧場見学ツアーを行った2017年のクラブ・ユースには大學生らも参加。乳業の工場や飼料会社の見学や牧場を見学し、ディスカッションを行った。



会員のいすみ秀高牧場(千葉県いすみ市、右)や加茂牧場(同八千代市、左)を視察した際の一コマ。府県の会員牧場の視察や会員との交流にも積極的だ



というのも大きいです。

酪農教育ファーム活動を始め、 牛舎の美化や飼養管理への意識高まる

北出 みなさんは、この会でやりたいことができているでしょうか？自分がやりたいことは達成しつつあるのかな、と思います。仲間同士の交流と酪農応援団を増やすという目的を見失うことなく、それでも自由にみんなと話し合いながら活動していきたいです。

大友 もっと会員が増えるといいのかなと思って地元の酪農家に声がけしていますが、みんななかなか忙しいし、交牧連のことをお堅い集団とか、“牛屋って素晴らしい”と発信したい人たちの集まりと思っているみたいです。自分も入会した時に名簿を見て、6次産業化を進めるやり手の酪農家ばかりで、ウチみたいな一般酪農家がいいのかなと思いました。

でも、もともと妻が酪農教育ファーム活動をやりたがっていて、いざ受け入れしてみると自分も面白く感じました。人が来ることによって、牧場をきれいにしようとか、牛をきちんと飼おうとか、そういう意識は高まりました。

それに周囲の酪農家から「そんなことをやっているから乳質が落ちた」なんて言われたくないから、以前より乳質などもすごく意識するようになりました。

伊藤 自分も牧場内でお店を始めた頃は、絶対に生産量を減らせなかったし、乳質にもとても気を使いました。ましてや自分はUターン就農で、周りからは「酪農経営自体失敗する」と思われていたので常に緊張感を持っていました。

以前、牧場に都会からおじいさんとお孫さんが来た



2018年は互いが気持ちよく働くための考え方などを学ぶ研修会を実施。会員の他、会員牧場の従業員、酪農に興味がある学生・教員などが参加し、つながりを深めた

ことがあり、おじいさんは「生きた動物がいて、これが口に入るということを孫に教えたくて来た」と言っていました。開かれた牧場が各地域にあるのは小さなきっかけかもしれないけど、そういう機会を与えることもできるのだと思います。

北出 消費者に何かを感じてほしいと思って始めたことが、自分たちのためにもなっていて、外部と交流することで気づけることがありますよね。

誰に何を伝えるかを意識しながら活動したい

北出 これからの活動について思うところはありますか？

伊藤 酪農教育ファームのように活動が深化するのはいいけれど、同じような思いで活動している酪農家は他にもいるし、みんなでやっていることや、それぞれの牧場でやっていることも、みんなのものとして次の世代につなげていくことを意識しながら活動していくことが大切だと思います。

北出 時々、自分のやりたいことと目的がごちゃ混ぜになる時があります。今は誰に何を伝えるのか、何を伝えるのかとか、そういうことをみんなで考えながら活動していきたいです。

石川 自分たちの会なのだから、みんなの了解の上で、もっと躍動的にやっているといます。

活動したことが、次の活動へと生きていることが分かると、会の厚みや説得力になると思います。

今のような酪農環境の中で、過去の厳しい時代を先輩酪農家は乗り越えてきたのか、これからどうしていくのかについて、みんなで会って話したこともとても意味のある時間だったし、誰でもオンライン牧場体験ができるように「オンラインスターターキット」をつくったので、今後はそれを活用していけるといいと思います。(3月15日実施)

地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先
 (一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局
 TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
 メール: koubokuren@churaku.jp
 ホームページ: https://www.dairy-farm.jp/
 フェイスブック: https://www.facebook.com/koubokuren



【交牧連 HP】